

熊本県立荒尾支援学校進路便り

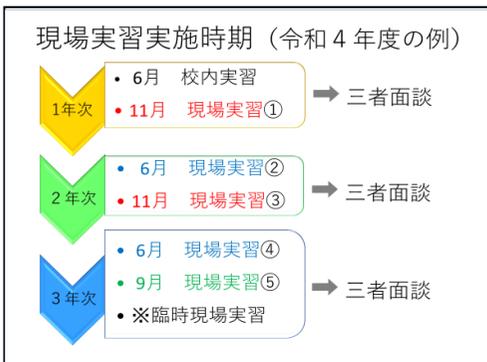
わーく & らいふ

令和5年度第7号(通巻81号) 11月 7日発行

【シリーズ】キャリア教育 高等部一般学級「第Ⅰ期現場実習」

高等部一般学級では、前期に3年生・2年生がそれぞれ9日間の第Ⅰ期現場実習、1年生が校内実習を行いました。生徒たちにはそれぞれ、今回の経験が自分の進路選択や決定に向けた一助となったことでしょう。今回の進路だよりでは、各学年の様子を特集記事としてお届けします。

◆実習と面談の繰り返しで、ぴったりの進路に迫ります。



左図は、高等部一般学級の「現場実習」の実施時期を表したものです。生徒たちは、1年次の秋から卒業まで5回の「現場実習」を体験します。

実習後、実習の成果や課題を基にして話し合う「三者面談」では、実習先からの外部評価で明らかになった生徒たちの適性や働く力の段階から、「生徒にぴったりの進路」について本人・ご家族・学校

で共通理解を図っていきます。

実習先からの外部評価は厳しい場合もありますが、このように、実習と三者面談の繰り返しによって、卒業までに生徒たちにぴったりの進路先を探していくのが特別支援学校の進路支援です。

また、三者面談は、就職や福祉サービスの利用に向けた必要な手続きについて情報提供する大切な機会となります。

◆1年生の取組「校内実習」

1年生は、働くことを経験する最初の段階として、校内実習に取り組み、校内で終日働く活動を通して、働くことの大切さや大変さを経験しました。また、3年生の実習報告会では、先輩の実習の様子を聞き、現場実習のイメージと次は自分たちの番であることの心構えができました。

事前学習では、谷口進路指導主事から「実習は人生の節目、成長のチャンス。実習を通して『働く大人』になれるように頑張る」と心構えを聞き、各自、自分の目標立てを行いました。

実習では、1週目はボールペン分解・組立、タオルたたみ等に取り組み、2週目は実際に企業から受注した作業に取り組み、納品に至るまでの作業経験ができました。

事後学習では、作業だけでなく報告・相談といったコミュニケーション面はどうだったか、諦めずに取り組めたかなど実習中の自分を振り返り、次の実習へ繋げる目標を立てました。

◆2年生の取組「はたらく」を広げる現場実習

2年生は2回目の現場実習。自分の可能性の幅を広げ、適性を見極めていく時期となります。

事前学習で前回の実習で見た自分の課題を整理して目標を立て、今回の実習に挑みました。

事後学習では、立てた目標に手ごたえを感じたり、経験値が増え自信に繋がったりした様子が見えたりしました。また、「働くことの大変さ」を感じた期間にもなったようでした。

◆3年生の取組「進路を選ぶ・決める」現場実習

3年生は、卒業後を見据えて取り組む実習となります。これまでの現場実習を踏まえ、自分に合った就労先や作業内容の確認も含め、自己理解を図りつつ就職先へのマッチングを図っていきます。

生徒たちは、事前学習が始まるとすぐに現場実習モードに切り替え、実習中は自分の目標を意識して臨む姿が見られました。

実習報告会では、それぞれの企業や事業所で充実した活動ができた、自分の課題解決に向け修練したりと、今後に向け歩みを進めた様子を参加者に発表することができました。

<編集後記>

第Ⅰ期現場実習後、生徒たちには、行動の切り替えができるようになったり、報告の仕方が身についたりする姿が見られました。また、友達同士の言葉掛けや自分たちで授業の準備を行う場面も増え、頼もしく感じています。

保護者の皆様には、お忙しい中「目標宣言会」や「報告会」へのご参列ならびに実習期間中のご支援・ご協力ありがとうございました。

<進路目安箱>



☆進路に関する疑問・質問は、上のQRコードからどしどしお寄せください。